

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成19年11月8日(2007.11.8)

【公表番号】特表2004-500088(P2004-500088A)

【公表日】平成16年1月8日(2004.1.8)

【年通号数】公開・登録公報2004-001

【出願番号】特願2001-558466(P2001-558466)

【国際特許分類】

C 1 2 N	15/09	(2006.01)
A 6 1 K	8/72	(2006.01)
A 6 1 K	8/00	(2006.01)
A 6 1 Q	5/02	(2006.01)
A 6 1 Q	11/00	(2006.01)
A 6 1 Q	19/10	(2006.01)
A 6 1 K	39/00	(2006.01)
A 6 1 P	31/00	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	37/02	(2006.01)
A 6 1 P	43/00	(2006.01)
C 1 2 N	1/15	(2006.01)
C 1 2 N	1/19	(2006.01)
C 1 2 N	1/21	(2006.01)
C 1 2 N	9/02	(2006.01)
C 1 2 N	9/04	(2006.01)
C 1 2 N	9/10	(2006.01)
C 1 2 N	9/12	(2006.01)
C 1 2 N	9/14	(2006.01)
C 1 2 N	9/16	(2006.01)
C 1 2 N	9/20	(2006.01)
C 1 2 N	9/90	(2006.01)
C 1 2 N	5/10	(2006.01)
A 6 1 K	38/43	(2006.01)
A 6 1 K	38/22	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 K	38/44	(2006.01)
A 6 1 K	38/45	(2006.01)
A 6 1 K	38/46	(2006.01)
A 6 1 K	38/52	(2006.01)

【F I】

C 1 2 N	15/00	Z N A A
A 6 1 K	7/00	J
A 6 1 K	7/075	
A 6 1 K	7/16	
A 6 1 K	7/50	
A 6 1 K	39/00	A
A 6 1 P	31/00	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	37/02	
A 6 1 P	43/00	

C 1 2 N	1/15
C 1 2 N	1/19
C 1 2 N	1/21
C 1 2 N	9/02
C 1 2 N	9/04
C 1 2 N	9/10
C 1 2 N	9/12
C 1 2 N	9/14
C 1 2 N	9/16
C 1 2 N	B
C 1 2 N	9/20
C 1 2 N	9/90
C 1 2 N	5/00
A 6 1 K	37/48
A 6 1 K	37/24
A 6 1 K	37/02
A 6 1 K	37/50
A 6 1 K	37/52
A 6 1 K	37/54
A 6 1 K	37/58

【手続補正書】

【提出日】平成19年9月11日(2007.9.11)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】**【特許請求の範囲】**

【請求項1】 T細胞エピトープを含んでいる問題とするポリペプチドの変異体であって、該変異体および該ポリペプチドが個体において異なった免疫原性応答を生み出すように、改変されたT細胞エピトープを持っていることにより問題とするポリペプチドと異なっている、変異体。

【請求項2】 変異体により生み出された免疫原性応答が、問題とするポリペプチドにより生み出された免疫原性応答よりも小さい、請求項1に記載の変異体。

【請求項3】 変異体により生み出された免疫原性応答が、問題とするポリペプチドにより生み出された免疫原性応答よりも大きい、請求項1に記載の変異体。

【請求項4】 問題とするポリペプチドが酵素、ホルモン、因子、ワクチンおよびサイトカインから成る群より選択される、請求項1に記載の変異体。

【請求項5】 問題とするポリペプチドが、個体により個体に対して内因性として認識されない、請求項1に記載の変異体。

【請求項6】 問題とするポリペプチドがリパーゼ、セルラーゼ、エンドグルコシダーゼH、プロテアーゼ、カルボヒドラーーゼ、リダクターゼ、オキシダーゼ、イソメラーゼ、トランスフェラーゼ、キナーゼおよびホスファターゼから成る群より選択される酵素である、請求項1に記載の変異体。

【請求項7】 T細胞エピトープがアミノ酸置換により改変されている、請求項1に記載の変異体。

【請求項8】 T細胞エピトープが問題とするポリペプチドのホモログの対応する末端部分で置き換えられたT細胞エピトープを含んでいる、問題とするポリペプチドの末端部分を持っていることにより改変されており、但し、ホモログは、置き換えられたT細胞エピトープと同一のT細胞エピトープを含んでいない、請求項1に記載の変異体。

【請求項 9】 変異体が、問題とするポリペプチドおよび結合されたホモログよりも少なくとも一つ少ないT細胞エピトープを含む、請求項8に記載の変異体。

【請求項 10】 変異体が、問題とするポリペプチドおよび結合されたホモログよりも少なくとも二つ少ないT細胞エピトープを含む、請求項8に記載の変異体。

【請求項 11】 請求項1の変異体をコードしている核酸。

【請求項 12】 請求項11の核酸を含んでいる発現ベクター。

【請求項 13】 請求項12の発現ベクターで形質転換された宿主細胞。

【請求項 14】 請求項6の変異体を含んでいる清浄組成物、動物飼料組成物、または織物を処理するための組成物。

【請求項 15】 さらに医薬として受容可能な担体を含んでいる、請求項1に記載の変異体。

【請求項 16】 同じ型の別の酵素と比較して、減少した免疫原性応答を生み出す、天然に存在する酵素を含んでいる清浄組成物、動物飼料組成物、または織物を処理するための組成物。

【請求項 17】 型がプロテアーゼである、請求項16の組成物。

【請求項 18】 酵素がプロティナーゼKである、請求項16の組成物。

【請求項 19】 蛋白質により生み出される免疫原性応答を決定する方法であり：

(a) 単一の血液源から、樹状細胞および天然のCD4⁺および/またはCD8⁺T細胞の溶液を得；

(b) 樹状細胞の該溶液中の分化を促進し；

(c) 分化した樹状細胞および天然のCD4⁺および/またはCD8⁺T細胞と該蛋白質を混合し；および

(d) 工程(c)におけるT細胞の増殖を測定することから成る方法。

【請求項 20】 免疫原性応答を別の蛋白質と比較することをさらに含んでいる請求項9に記載の方法。

【請求項 21】 蛋白質および別の蛋白質がお互いにホモログである、請求項20に記載の方法。

【請求項 22】 蛋白質および別の蛋白質が各々プロテアーゼである、請求項20に記載の方法。

【請求項 23】 蛋白質および別の蛋白質が各々、同じ蛋白質の異なったペプチドである、請求項20に記載の方法。

【請求項 24】 問題とするポリペプチドの免疫原性を改変する方法であり；

a) 該ポリペプチドの免疫原性を決定し；

b) 該ポリペプチド中のT細胞エピトープ同定し；および

c) 該ポリペプチドの免疫原性を改変するようにT細胞エピトープを改変することからなる方法。

【請求項 25】 T細胞エピトープが少なくとも一つのアミノ酸置換を持つことにより改変される、請求項24に記載の方法。

【請求項 26】 アミノ酸置換が、T細胞エピトープをコードしている核酸を改変することにより行われる、請求項25に記載の方法。

【請求項 27】 T細胞エピトープが、T細胞エピトープを含んでいる問題とするポリペプチドの一部分を、問題とするポリペプチドのホモログの対応する部分で置き換えることにより改変され、但し、対応する部分はT細胞エピトープを含んでいない、請求項25に記載の方法。

【請求項 28】 部分がポリペプチドの末端部分である、請求項27に記載の方法。